

平成27年度第2回 独立行政法人農業者年金基金資金運用委員会 議事概要

1. 開催日時

平成28年1月22日（金）14:30～16:15

2. 開催場所

独立行政法人農業者年金基金 特別会議室

3. 出席委員

・浅野幸弘 委員長 ・臼杵政治 委員 ・菅原晴樹 委員

4. 議事

資金運用の課題等について

- ・グローバル株式について
- ・外国債券の為替ヘッジについて
- ・被保険者ポートフォリオのインフレ対応について 等

5. 概要

前回（平成27年6月19日）開催の平成27年度第1回資金運用委員会における資金運用に関する意見・質問に対する基金の検討状況等を事務局から報告した。

このうち、グローバル株式や外国債券の為替ヘッジについては、定性的な整理を行うなど引き続き検討を進めていくこととなった。

インフレへの対応については、緊急の課題ではないが、長期的な問題として意識していくこととなった。

また、最近の運用状況及びスチュワードシップ責任を果たすための方針の実施状況について事務局から報告した。

なお、今回の議事についての委員からの主な意見等は以下のとおり。

<主な意見等>

- グローバル株式の検討にあたっては、加入者の意識を確認した上で、国内株式と外国株式を分ける場合とグローバルにまとめた場合のそれぞれの考え方や定性的な違い、メリット・デメリットを整理して進めていく必要がある。
- 外国債券の為替ヘッジの検討にあたっては、過去のデータを踏まえ、経済局面の違いによる為替の影響を分析した上で、為替ヘッジをする意味、しない意味を整理する必要がある。
- インフレ対応については、給付が定額であり、資金運用の問題としては緊急な課題ではないが、インフレ対応が必要になってくるかどうかを含めて、長期的な問題として意識する必要がある。
- スチュワードシップ活動については、当基金の方針に則して運用受託機関が体制を整備し、適切に取り組んでいることが確認された。

以上